

CA COPYRIGHT 2000 ACS

AN 83:50687 CA

TI Photochlorination of difluoroethane

IN Wada, Hiroyuki; Morioka, Ichiro

PA Daikin Kogyo Co., Ltd.

SO Japan., 4 pp.

CODEN: JAXXAD

DT ***Patent***

LA Japanese

FAN.CNT 1

	PATENT NO.	KIND	DATE	APPLICATION NO.	DATE
PI	JP 49041166	B4	19741107	JP 1970-1649	19691225
AB	The efficiency of the gas-phase photochlorination of 1,1-difluoroethane (I) by Cl with the prodn. of 1-chloro-1,1-difluoroethane (II) is improved by (1) carrying out the reaction at <250°, (2) keeping the residence time of the reacting gas mixt. in the reaction zone at >0.1 sec, (3) maintaining a molar ratio of I:Cl at 1:0.1-2, and (4) recycling a part of the reaction mixt. back into the reaction zone at a vol. ratio of >0.5 (based on I). Thus, I and Cl were mixed, introduced into a pyrex glass tubular reactor, and photolyzed with 3000-4000 Å radiation from a 40-W lamp. The II yield was increased from 80.8 to 97.5% (based on I consumed) as the recycled gas ratio was increased from 0 to 1.3 and the temp. decreased from 210° to 170° (I and Cl were fed into the reactor at 0.48 and 0.52 l./min, resp. with a residence time of 10 sec).				

50687

Chemical Abstracts Vol. 85

50687p Photochlorination of difluoroethane. Wada, Hiroyuki; Morioka, Ichiro (Daikin Kogyo Co., Ltd.) Japan, 74 41,166 (Cl. C 07c, B 01), 07 Nov 1974, Appl. 70 1649, 25 Dec 1969; 4 pp. The efficiency of the gas-phase photochlorination of 1,1-difluoroethane (I) by Cl with the prodn. of 1-chloro-1,1-difluoroethane (II) is improved by (1) carrying out the reaction at <250°, (2) keeping the residence time of the reacting gas mixt. in the reaction zone at >0.1 sec, (3) maintaining a molar ratio of I:Cl at 1:0.1-2, and (4) recycling a part of the reaction mixt. back into the reaction zone at a vol. ratio of >0.5 (based on I). Thus, I and Cl were mixed, introduced into a pyrex glass tubular reactor, and photolyzed with 3000-4000 Å radiation from a 40-W lamp. The II yield was increased from 80.8 to 97.5% (based on I consumed) as the recycled gas ratio was increased from 0 to 1.3 and the temp. decreased from 210° to 170° (I and Cl were fed into the reactor at 0.48 and 0.52 l./min, resp. with a residence time of 10 sec).

50688q Photosensitive silver halide emulsion. Sakai,

coup
whic
layer
cont



特許願(B)提出なし

昭和47年8月31日

特許長官 三宅幸夫 殿

セイケイエキフチャクソウチ

1. 発明の名称 ハイキューバにおける成型液付着装置
2. 発明者 オビヒロ
住所 北海道帯広市西22条北1丁目13番地
氏名 カネトウ ユウジ (ほか3名)
3. 特許出願人
郵便番号 [7] [9] [0]-□□
住所 松山市大手町2丁目5番地7
名称 (012) 井関農機株式会社
代表者 森 美 德
連絡先 (書類送付先)
郵便番号 [1] [0] [3]-□□
住所 東京都中央区日本橋通2丁目2番地(同上)
名称 井関農機株式会社 特許部 電話(271)1271
4. 添付書類の目録
(1) 明細書 1通
(2) 図面 1通
(3) 願書副本 1通
(4) 出願審査請求書 1通

明細書

1. 発明の名称

ハイキューバにおける成型液付着装置

2. 特許請求の範囲

シリンドー6およびピストン7で草類を圧縮して圆形に成形するハイキューバにおいて、シリンドー6の終端に成型液を圧入することのできる周溝10aを介して補助シリンドー11を接続し、この補助シリンドー11の内径をシリンドー6の内径よりも大にしたことを特徴とする成型液付着装置。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、ピストンおよびシリンドーで草類を圧縮して圆形に成形するハイキューバにおける成型液付着装置に関するものである。ハイキューバで草類を圧縮して圆形にする場合に、禾本科牧草のように成形しにくい牧草を圆形に成形するときには、成型液を添加することがある。このような場合に、従来の装置にあつては、牧草をハイキューバへ移送する過程で成型液を草類に添加して

⑯ 日本国特許庁

公開特許公報

⑪特開昭 49-41166

⑬公開日 昭49.(1974) 4.17

⑫特願昭 47-86665

⑭出願日 昭47.(1972) 8.31

審査請求 有 (全4頁)

府内整理番号

675549

6A01

⑮日本分類

特許 11
47.8.31
第3二級
乃

いた。このため、ほとんどの大部分の草の表面に成型液が付着し、搬送過程でのつまり等のトラブルを起すことがあり、圆形に圧縮形成された草が固くなり過ぎるという欠点もあつた。この発明は、このような欠点を解消しようとするものであつて、以下、図面に示す実施例に基づいて、この発明を説明する。

まず、発明の構成について説明する。

1はホッパーで、このホッパー1の底部に設けられている受槽2に、螺旋移送装置3を回転自在に軸架し、この螺旋移送装置3の終端部の軸部3aには、被移送物を外周方向へ放出する搔き込み羽根4を取りつけ、受槽2における螺旋移送装置3の搔き込み羽根4の外周部一側には、供給室5を構成して、この供給室5と受槽2とを連通開口している。この供給室5の一個部には、両端が開口しているシリンドー6の一端を接続し、供給室5のシリンドー6の開口部から180度偏位した位置に、シリンドー6の長手方向に沿つて往復動するピストン7を位置させて設け、このピストン

7がシリンダー6側へ移動した状態では、ピストン7の先端部がシリンダー6内に嵌入するよう構成されている。

8はピストンの駆動装置で、この駆動装置8は、原動機(図面省略)の動力を受けて回転する軸8a、軸8aに取りつけられている偏心輪8b、ピストン7の端部に軸着されているアーム8c、アーム8cに一体的に構成されていて偏心輪8bが嵌入している外輪8dにより構成されている。9は、螺旋移送装置3の駆動装置で、この駆動装置9は、軸8aに取りつけられているブーリー9a、機体10に軸架されている入力軸9b、入力軸9bに取りつけられているブーリー9c；ブーリー9aとブーリー9cとに掛け回されているベルト9d、入力軸9bに取りつけたブーリー9e、螺旋移送装置3の軸部3aに運動連結しているブーリー、ブーリー9eとブーリー9fとに掛け回したベルト9gにより構成されている。

シリンダー6の移送終端部には、周溝10aを構成したリング10を取りつけ、このリング10

の状態となり、団形となりながら順次シリンダー6の終端側へ押し出される。

このようにして、圧縮され団形に成形された草は、シリンダー6の終端から補助シリンダー11へ行する段階で、わずかに周方向にふくらむとともに、ポンプ12により周溝10aに圧入されている成型液が草の外周面に付着し、団形に成形されている草の表面を固くする。

成型液を草に添加するにあたり、草をハイキューバへ搬送する過程で添加する従来の装置にあつては、団形に成形された草は、第6図に示すように、内部までほとんど一様に固くなり、団形に成形された草が固くなり過ぎるという欠点もあつたが、この発明では、圧縮成型過程で圧縮して団形化された草の外周部のみに成型液を付着するものであるため、成型後の草は第5図に示すように外周の部分は成型液で固化されて固くなり、成型液が作用しない内部は柔らかい状態であるので、草全体が固くなり過ぎるようなことはない。

このように、この発明は、成型液を付着させる

特開昭49-41166(2)の移送方向終端側に補助シリンダー11を嵌合し、リング10側のセットカラー10bと補助シリンダー11のねじ部をねじ嵌合し、補助シリンダー11をシリンダー6の終端部に、リング10の周溝10aを介して取りつけている。そして、この補助シリンダー11の内径をシリンダー6の内径よりも大きく構成している。

そして、リング10の周溝10aには、ポンプ12に連通しているパイプ13を接続し、ポンプ12と成型液タンク14とをパイプ15で接続している。

つぎに、この発明の作用について説明する。

ホッパー1にあらかじめ乾燥されている牧草を供給すると、螺旋移送装置3で終端部まで送られ、終端部へ送られた草は、掛け込み羽根4によりたたき込むようにして供給室5へ送り込まれ、牧草は圧縮された状態で供給室5へ供給される。供給室5へ供給された草は、往復動しているピストン7でシリンダー6へ圧入されながら圧縮され、ピストン7の一行程ごとに圧縮された草が平行な層

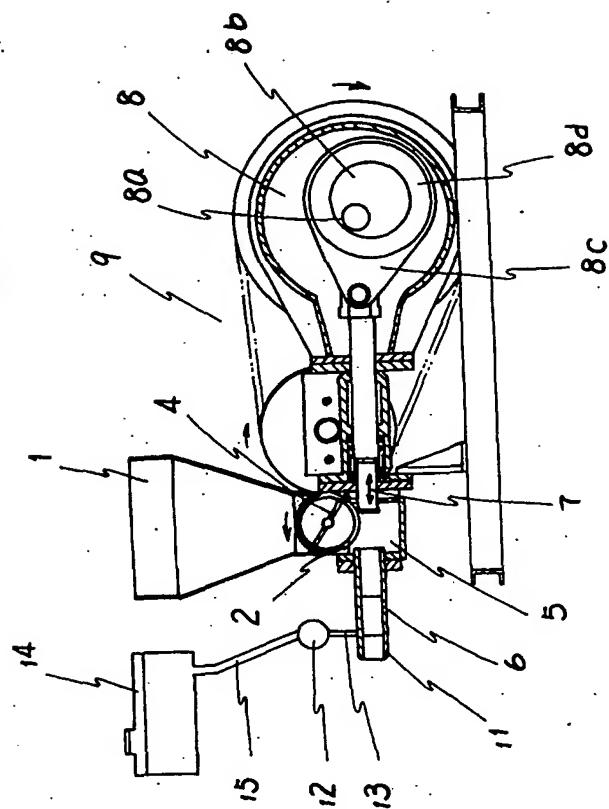
にあたり、圧縮成型過程にある団形化された草の外周部にのみ成型液を付着し、成型前のハイキューバへの草を搬送する過程に成型液を添加しないので、搬送過程において草類が搬送装置に巻き付くような欠点もなく、また、成型された団形の草を外周部のみ成型液で固化し、内周部は柔らかくすることができ、団形に成形された草が必要以上に全体が固くなるようなことはない。

4. 図面の簡単な説明

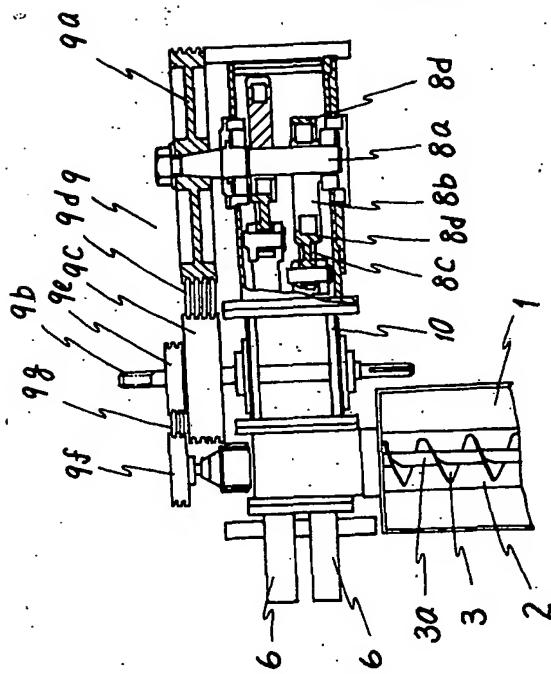
図面は、この発明の実施例を示すものであつて、第1図は、側断面図、第2図は、一部切削した平面図、第3図は、切断正面図、第4図は、要部の側断面図、第5図および第6図は、ハイキューバで団形に成形された草の断面図である。

1	ホッパー
6	シリンダー
7	ピストン
10	リング
10a	周溝
11	補助シリンダー

第1図



第2図



5. 前記以外の発明者

住 所 北海道帯広市西22条北1丁目13番地
オビヒロシ氏 名 イナダコウソウ
種 田 浩 三住 所 北海道帯広市西22条北1丁目13番地
オビヒロシ氏 名 シマズキトシジ
島 實 利 治住 所 北海道帯広市西22条北1丁目13番地
オビヒロシ氏 名 クロサワイサオ
黒 沢 熊

住 所 変 更 届

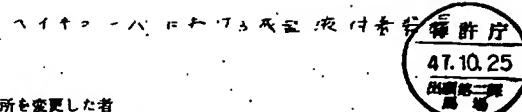
昭和47年10月25日

特許庁長官 三宅幸夫殿

1. 事件の表示

件番号 47-11115

2. たとくの名称



3. 住所を変更した者

事件との関係 特許は個人

旧住所 愛媛県松山市大手町2丁目5番地7

新住所 愛媛県松山市馬木町700番地

名 称 (012) 井関農機株式会社

代表者 篠 茂 德

連絡先住所 東京都中央区日本橋通り2丁目2番地(朝日生命館)

名 称 井関農機株式会社 特許部 電話(271) 1271